



第51図 16形カラーテレビ
CST-1100



第52図 5形トランジスタ
テレビ FI-5000

mm 短く、このためキャビネット奥行も 38 cm と薄く、奥行および重量は各社中最小である。90 度偏向にしたため、両面に糸巻ひずみが出やすくなるが、垂直糸巻ひずみ補正回路(特許出願中)により完全に補正してある。色同期関係については、両期的な新回路の採用によって安定度がさらに向上した。(特許 3 件出願中)

そのほか、扱いやすさを改良するとともに、高圧関係諸部品の温度を下げたので、事故率の低下が予想される。

13.6.3 トランジスタテレビジョン受信機

(1) “FI-5000”

“FI-5000”5.5 形トランジスタテレビ受信機は、どこでもテレビを見ることができるよう計画されたテレビで、極度に小形軽量化されている。AC 電源部分取りはずしの容易なことや、アクセサリーの豊富なことと相まってその利用範囲を広めた。また過酷な状態でも聴視できるように五つの特許にかかるパーフェクト AGC、超同期、自動垂直振幅直線性制御、水平発振安定化方式がとり入れられている。

13.6.4 ラジオ受信機

(1) TH-900

ビート方式によるオートチューニング回路の開発と、エンドレ



第53図 オートチューニング
9石ラジオ TH-900



第54図 レーダチューニング
付き6石ラジオ TH-666F



第55図 FM付き9石ラジオ
KH-920L



第56図 インターホン TK-300 TSI-101



(5) トランジスタ“ポケットトキー” CH-401”

トランジスタ 4 石で、9 石と同等の性能を発揮する——小形、軽量、安価なレジャー用トランシーバとして開発され、海外にも多く輸出されている。

(6) トランシーバ“テレトキー” CH-941”



第57図 トランシーバ
CH-1240

ス可変電器の開発により、世界で初めてのポータブル形オートチューニングラジオを市場に出すことに成功した。

ボタン一つでラジオの操作ができ、一般性能は従来のトランジスタラジオに比べ劣らないものである(方式そのほかで特許実用新案合計 10 件出願中)。

(2) TH-666F

従来のレーダチューニングをさらに改良し、6 石ラジオで、レーダチューニング増幅用のトランジスタなしで動作を行なわせるようにした両期的新製品で、“TH-666F”フラッシュとし、市場で好評を博している。

(3) FM ラジオ

FMラジオの輸出拡充と、国内のFM放送の普及に備えるため、“KH-960”、“KH-1000”、“F-666”、“KH-920L”の開発を行なった。

“KH-920L”は、欧州市場の拡充をねらったもので、とくに性能、デザインは市場にマッチするよう設計されており、“KH-960”はとくに携帯に便になるよう性能を落さず、小形に設計されている。

13.6.5 インターホン、トランシーバ

インターホンは、業務用および家庭用として親機 2 機種、子機 2 機種が開発された。また、トランシーバは家庭用には「ポケットトキー」と呼ばれる超小形が、業務用には 100 mW クラス 3 機種が開発された。

(1) インターホン TK-100

標準形 1 局用親機で、インターホン専用スピーカ(マイク兼用)により特に明瞭度がすぐれている。また、プッシュボタンシステムにより操作が簡単である。

(2) インターホン TK-300

標準形 3 局用親機で、TK-100 を 3 局用としたほか、呼出時にランプを点灯させ、どの子機が呼んでいるかが一目でわかるようにした。

(3) インターホン TSI-101

屋内用の子機で、いずれの親機にも合うように設計されている。

(4) インターホン TSU-102

屋外用の子機で、特にスピーカは防水タイプとなっているほか、盗難防止のため取付構造が工夫されている。



第58図 FM マルチ内蔵
ステレオシンフォニカ 6900



第59図 オートチェンジャーつきステレオ
シンフォニカ 7100



第60図 真空管式4トラック
テープレコーダ TRA-505



第61図 トランジスタ式テーブ
レコーダ TRQ-510

標準形 100mW クラストランシーバで、レジャー用、業務用として最も多く利用されている。

(7) トランシーバ“スーパーキー CH-1240”

ステルチ回路、ノイズリミット回路を備え、雑音の多いところでも使用できる最高級トランシーバで、おもに業務用として用いられ、好評である。

13.6.6 ステレオ

FM放送局の増加と、FMステレオ放送時間の増加によってFM放送は充実してきたが、日立ステレオではこのFMブームにそなえ受信部の感度上昇をはかり、FMステレオ放送の受信装置を内蔵したセットを、他社にさきがけて発売した。また、日立独自の求めやすい価格のFMステレオアダプター、“MA-20”、“MA-30”を発売したが、これは日立FM付ステレオ全機種に組込め、日立ステレオの普及に役だち、FMチューナ、“UF-1000”とともにFM時代のステレオ態勢を強化した。また5時間連続演奏できるオートチェンジャー、シンクロナスモートル採用のフルオートプレーヤー、オートプレーヤーや片手でふたを開閉できる便利なオート・ドア、美しいポリエステル塗装、ジャガード織りの豪華サランなどの開発により日立ステレオの価値を高めた。さらに小形で大出力のポータブル電器、“DPA-186”を発表し、オートプレーヤ“DPO-075”、オートストップ付プレーヤ“DPO-085”の発売とともに機種構成を強化した。

(1) “シンフォニカ 7900”

大口径 30cm スピーカ 2個と、6.5cm スピーカ 2個を用いているので、高低音の伸びが非常に良く、FMマルチステレオ受信装置の内蔵とともに大きな特色となっており、残響、AFC、オート・ドアなどの付属機構とともに好評を博している。

(2) “シンフォニカ 6900”、“シンフォニカ 480”

FMマルチステレオ受信装置の内蔵と、20cm スピーカとツイーターによる4スピーカーで美しい音質が楽しめる。

(3) “シンフォニカ 5900”、“シンフォニカ 6000”

このクラスのステレオとしては日立独自の特徴であるダイナミックレンジ・コントロールと、ダイヤモンド針、スタートから自動演奏できるオートプレーヤなどのポイントを持つセットである。

(4) “シンフォニカ 7100”

5時間連続自動演奏のオートチェンジャーつきで、総合 16W の大出力が楽しめるデラックスステレオ。

13.6.7 テープレコーダ

テープレコーダの普及率の向上を期して、1~2万円間の普及価格の機種が各社より出そろい、競争はますます烈しくなってきた。

かかる状況下において、よりいっそう普及率を高めるため、それぞれ用途の異なる4機種の開発を行なった。その中の3機種を紹介する。

(1) “TRQ-550”

さきに好評を博した“ベルソーナジュニア 500”の廉価版で、レベルマッチング、ワンハンドコントロールという操作面の2大特長をそのまま引き継ぎ、トランジスタ化によって即時動作が可能となり、いっそう取り扱いやすくなっている。

(2) “TRA-505”

数多くの機種と用途を持つ4トラック2チャンネルテープレコーダである。片方のチャンネルに録音しながら、他方のチャンネルで再生ができ、しかも各チャンネルの音量は別々に調整できるので、英会話の練習などに最適で、さらに1人で2重唱などのおもしろい使い方もできる。そしてほかに外部アンプを1台用意すれば、ステレオテープの再生も可能である。また、モノラルで使用すれば、往復6時間(4.75cm/秒)も録音・再生ができ、付属のマイクロホンとしては、初めての単一指向性ダイナミックマイクロホンを使用している。

(3) “TRQ-510”

電池、電灯線の両電源を使用できるポータブルテープレコーダで、電池は価格の割に容量の大きい単1号乾電池を使用し、そのうえ、ACアダプタも内蔵されていて顧客の便を図っている。5号リールまで使用可能で、操作は押ボタン式である。またテープカウンタつき、スピーカモニタ可能で、前面音響方式と高出力(700mW)によってすぐれた音質を楽しめる。

13.6.8 アンテナ

(1) 強力室内ユニバーサルアンテナ

テレビ受信用室内アンテナは、標準ダイポールアンテナの劣へ易の感度しか得られず、しかも指向性も充分でないため、テレビ受像機の画質が劣ることはよく知られている。

今回開発されたユニバーサルアンテナは、室内のこもい、柱、天井など自由に取り付けられる基台を持つ2素子アンテナである。

感度は標準ダイポールと同等または2倍に近い性能を有し、指向性は±35度で、多重像も軽減して美しい画質をうることができる。本ユニバーサルアンテナは、東京代々木のオリンピック選手村に多数納入され、各国選手に美しい画像を提供することができた。